



## 平成29年度 単位 施策評価表 補表

施策	6502 全市的交流イベント開催の推進		
区分	妥当性	妥当	実施・主体・手段・意図ともに妥当である。
	コスト削減の余地	有	なし。
	受益者負担	適正	スポーツ大会の参加費や駐車場料金の徴収など、受益者にも負担を求めており適正である。
	上位貢献度	有効	上位施策「多文化共生社会の成熟度」を高めるには、全市的イベントを開催する必要があり、本施策の貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	なし。
	成果向上の余地	有	各地域のイベント再編によるコストの削減、新市の一体感を醸成するための工夫など、成果向上の余地は残る。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	上位施策の「多文化共生社会の成熟度」を高めるためには、全市的な観光イベントの開催や、広く市民が参加できる各種スポーツ大会等を開催する必要があるため、本単位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	平成28年度のとちぎ秋まつりでは、市内全地域の小学生2,157人の参加希望があり、全市的な観光イベントの開催による一体感の醸成が図られつつある。 また、平成29年度で5回目を迎えた栃木市ウォーキング大会では、昨年も30km横断コースを設定し、全市的なイベントとして定着しつつある。	
	課題	各地域の観光イベントは、各地域に昔から根付いたイベントであり、一概に統合在りきというわけにはいかないことを実感した。	
	取組方針	再度、イベントの統合や再編に向けた方向性を検討する。 なお、平成29年度末をもって各地域の観光協会が合併したことから、イベント等においても新市一体となったイベントが開催できるよう、今後は合併後の観光協会と連携しながら調整をおこなう。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	上位施策の「多文化共生社会の成熟度」を高めるためには、全市的な観光イベントの開催や、広く市民が参加できる各種スポーツ大会等を開催する必要があるため、本単位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	とちぎ秋まつりや栃木市ウォーキング大会等、全市的なイベント開催による一体感の醸成が図られつつあると思われる。	
	課題	各地域のイベントは、各地域に昔から根付いているイベントであり、単純に統合在りきというわけにはいかないことを実感した。	
	取組方針	今後、観光協会や関係者等と連携し、調整をおこなう。	